

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870109755
法人名	有限会社 三光資産
事業所名	グループホームさんこう
所在地	松山市南土居町131-1
自己評価作成日	平成26年8月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者が安心してのびのび生活できるのを目標に、一人ひとりのニーズ、生活リズムを把握し、利用者の立場に立った支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

毎月、利用者毎に、体調や日常生活の様子を手紙で送付しており、利用者が「喜ばれたこと」や「困ったこと」等、ご家族の興味あることを書き添えるようにされている。
 以前に書道の先生をしていた方は、ご本人の希望もあり、現在も文字の練習を続けておられる。ご家族がご本人の作品を持ち帰り、実用講座の添削に送付して下さっており、居室には、認定書が飾られていた。職員は、万年筆のインク交換等して支援されている。
 朝はお好きな時間に起床し、ご自分のタイミングで朝食が食べられるような支援に努めており、一日のタイムスケジュールは細かく決めず、調査訪問時には、それぞれがパズルや塗り絵、広告を使ってゴミ箱を作る等されていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームさんこう

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 泉原 一世

評価完了日 2014 年 08 月 10 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の地域参加や地域住民との交流を通し、地域社会との繋がりを感じられる理念を作り上げている。日々の申し送りやミーティングの際、理念に基づいて話し合いを行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所の基本理念である「尊厳ある自由なかかわりのある暮らし」は、1階の事務所に、又、基本理念に沿って職員みなで作った「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分でやれる喜びと達成感のある暮らし」等、4項目のサブ目標は、2階の研修室に掲示されている。管理者は、折に触れて「利用者に落ち着いた生活をしてもらえるにはどうすればよいかを考えながら支援するように」と話しておられる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> <p>日常の散歩などの際には気軽に挨拶をされている。夏祭りや秋祭りなど地域のイベントに参加し、交流を行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>近くの公園で行われる町内の夏祭りには、利用者と一緒に参加して、屋台や盆踊りを楽しみながら地域の方と交流された。盆踊りでは、前列で見学できるよう町内会の方が席の用意をしてくれており、利用者は椅子に座ったまま一緒に踊られたようだ。秋祭りには、事業所の駐車場に大人、子供神輿・獅子舞が来てくれ、感激して涙する利用者もおられるようだ。毎年受け入れている久米中学校の職場体験では、生徒に認知症について説明されたり、一緒にレクリエーション等しながら過ごせるような時間を作られた。生徒からは、「介護をしている親の苦勞がわかった」との感想もあったようだ。民謡ボランティアを始めて受け入れて、利用者も馴染みの曲に合わせて口ずさみ好評だったようで、法人代表者は、「定期的を実施していきたい」と話しておられた。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>地域での研修や講習にも参加し、地域のお年寄りの現状の把握に努めたり、日頃から地域住民からの相談も受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	一方的な報告や説明の場にならないよう、率直な意見が出し合えよう配慮している。 出された意見は、日々の申し送りやミーティングなどで報告、話し合いを行っている。	
			(外部評価)	会議には、町内会長や民生委員等の参加があり、毎回テーマを決めて報告し、その後意見交換されている。今年度は、講師を招き「老後の暮らし方」「病気と薬」について話してもらったり、認知症についての勉強会や事業所の見学会も実施された。又、看取り支援後の会議では、事業所の看取りの考え方を説明されたり、経緯について報告し、連携する訪問看護師が、「QOD(死の質)」について講話された。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	いつでも連絡や協議をしながら、問題解決を図るよう体制をとっている。	
			(外部評価)	運営推進会議には、市の介護保険課の担当者や地域包括支援センターの方が参加されており、市民大清掃等のお知らせや、熱中症・食中毒の時期には予防について情報提供してくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	研修会やミーティングを通して日頃から身体拘束に対する意識を高め、注意している。	
			(外部評価)	各ユニットの入り口は、出入りするとチャイムが鳴るようになっている。現在、ひとりで出て行くような利用者はいないようだが、「帰りたい」と繰り返し言う方があり、「帰って何をしたい？」とお聞きしながら、事業所で支援できることを探ることに努めておられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会やミーティングを通して日頃から虐待防止に対する意識を高めている。また、家族の方にもできる限り訪問していただき、閉鎖的で虐待を生むような環境にならないよう注意を払っている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日々のミーティング時等、機会あるごとに職員への説明を行っており、必要な場合はすぐに支援できる体制をとっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、一つ一つの事項毎に理解・納得されているか確認を取りながら説明を行っている。又、家族等からの質問の時間も納得されるまで十分取っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 訪問時には、意見・不満・苦情等が表せ易いよう時間と場面作りを行っている。また、電話でもこちらからの問いかけを心がけ意見・不満・苦情の言い易い雰囲気作りを行っている。出された意見はすぐに話し合いを行い、運営に反映している。	管理者は、運営推進会議へのご家族の参加を検討していきたいと話しておられた。さらに、ご家族の都合等もうかがいながら、一緒に活動したりゆっくりお話をする機会を設け、事業所のことをさらに知ってもらえるよう、工夫されてはどうだろうか。利用する側であるご家族の意見や要望をサービスの質の向上につなげられるように、取り組みをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 法人代表者が、ご家族とのやりとりの主な窓口となっており、電話等でご家族と連絡を取り合い、意見や要望を聞いておられる。毎月、利用者毎に、体調や日常生活の様子を手紙で送付しており、利用者が「喜ばれたこと」や「困ったこと」等、ご家族の興味あることを書き添えるようにされている。各ユニットの入り口には、職員を紹介する顔写真が掲示されていた。体調変化時には、その都度、電話連絡し、様子を伝えるようにされている。外出や行事の案内もされているが、現在、参加される方はいないようだ。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			日々の申し送りや定期的なミーティングなどで話し合いを行い、改善を行っている。	
			(外部評価)	
			法人代表者は、「良いケアをするには、職員の働きやすい環境作りが大切」と考え、残業をなくし、休みの希望を優先して個々がリフレッシュできるよう取り組まれている。休憩時間は1時間確保しており、喫煙室も使用できるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			個々に話しをしたりして、状況を把握している。そして各スタッフの悩みや希望を反映できるように職場環境の改善に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			市や県、地域での研修や交流会参加等の情報提供行ない、それに合わせた勤務調整などを行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			地域での交流会などに参加し、交流を図っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			先ず、本人より訴えや話しを十分に傾聴し、思いや希望を把握し安心してサービスの利用ができるよう本人と話し合い、信頼関係づくりに努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用開始前に何度か話し合いをさせて頂き、ニーズや問題などをお聞きし、家族等の信頼関係ができるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			相談時、本人や家族の状況等を確認し必要なサービスが受けられるよう柔軟な対応を行い、必要ならば他事業者との相談やサービス利用等の連携をとっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			利用者が気軽に声かけができるよう努めていて、気軽に相談などを受けたり、世間話し込まれる中で信頼関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			一緒になって本人を支えていけるように、本人を交えて話をしたりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			本人のなじみの場所、友人、美容院、歯医者、病院とも関係が途切れないように家族を通して交流できるよう支援している。	
			(外部評価)	
			友人が事業所に訪問してくれたり、電話で話したりして、お付き合いを継続できるよう支援されている。以前に書道の先生をしていた方は、ご本人の希望もあり、現在も文字の練習を続けておられる。ご家族がご本人の作品を持ち帰り、実用講座の添削に送付して下さっており、居室には、認定書が飾られていた。職員は、万年筆のインク交換等して支援されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日の食事や午前・午後のおやつ時に職員も一緒に過ごし、利用者同士の関係の理解を深めるとともに、間に入って利用者同士のコミュニケーションが取れ合うよう支援し特定の利用者の孤立を生まないよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後も家族との連絡を取り合いながら関係を続け、必要であれば再度のサービス利用の相談にも対応している。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で把握に努めている。意思疎通の困難な方には家族から情報を得よう努め、本人にとって何が幸せな暮らしなのかを家族を交えて検討している。 (外部評価) 管理者は、「利用者一人ひとりが小さな希望や喜びを実現しながら、暮らしてほしい」と願っておられる。入居時のアセスメントに加え、日々の介護記録から抜粋した利用者の言葉や情報は、毎日「気づきノート」に転記しており、職員間で共有して支援につながるように努めておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用前や利用直後は、当事業所を利用するに至った経過やそれまでの生活歴について本人や家族等より聞きとっていき、暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の関わりの中からスタッフが本人の生活のリズムや暮らし方について申し送りや気づき等を利用し、把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>普段の会話の中から本人の思いや意向を掴み取り、それを基に十分な話し合いを行い利用者主体の介護計画の作成を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、ご家族や利用者に希望を聞き、ユニット毎に話し合い、計画作成者が中心となって作成されている。基本的に3ヶ月毎に見直し、状態変化時には、その都度見直しされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケアプランに沿った介護記録を行うようにし、日々の食事、水分、排泄の記録だけでなく、本人の会話や職員の対応・会話等も記録し、情報の共有を行っていくことで職員の経験に関係なく同じ対応が取れるよう努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人や家族の状況に応じ、通院や送迎等必要な支援を柔軟に対応している。また、緊急の受診や入院にも医療連携体制を活かし対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>行事等を通して地域住民と交流を図ったり、敬老の日等には近隣の小学校から手紙を頂いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	本人や家族と話し合い、希望されるかかりつけ医の受診支援を行っている。	
			(外部評価)		
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	提携医療機関を通して看護師とも契約を行っており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行ってもらっている。また、緊急の場合等は24時間相談、受け入れができるよう連携をとっている。	
			(外部評価)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	入院時は家族や病院と情報交換をしながら、事業者内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにしている。	
			(外部評価)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	早期から関係者と話し合いを十分に繰り返し行い、重度化した場合、事業所での最大の支援方法を本人や家族に説明し理解していただいている。	
			(外部評価)		

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ミーティングなどで定期的に対応の訓練をしたり、実例に基づいた話し合いを行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防訓練などを行っている。	昨年度の避難訓練実施は1回のみとなったようだが、今後は、いろいろな災害を想定して避難訓練を繰り返し、職員一人ひとりがいざという時の対応を身に付けられるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 今年度は、運営推進会議時に、夜間の火災を想定して避難訓練を実施された。消防署の立会のもと、通報訓練を行い、利用者も参加して避難誘導訓練を行い、参加者全員で水消火器で消火訓練もされた。職員からは、「ユニットの協力体制がスムーズにいかなかった」「横になっている利用者の誘導に時間がかかる」等の課題が挙げられた。消防署からは、迅速な通報や消防が来るまでの避難体制についてアドバイスがあった。事業所は地域の避難場所にもなっており、食料品の備蓄や地下水・太陽光の使用ができる設備も整えておられる。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 普段の関わりや記録等において、誇りやプライバシーを損ねるようなことがないよう、職員には日々のコミュニケーションの中で常に細心の注意を払うよう徹底している。	
			(外部評価) 調査訪問時には、職員は、話のきっかけを作って、利用者が話し出すのを待つような場面が見られた。職員は利用者へ、取り込んだ洗濯物について、たためる量や場所を相談しながら支援されていた。朝はお好きな時間に起床し、ご自分のタイミングで朝食が食べられるような支援に努めており、一日のタイムスケジュールは細かく決めず、調査訪問時には、それぞれがパズルや塗り絵、広告を使ってゴミ箱を作る等されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何か行動を起こす場合でも、必ず利用者の意思を確認してから行うようにしており、また、意思表示困難な方には表情や体の動きから意思を確認し、できるだけ本人に決めていただくよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間、食事おやつの時間、食べる場所、その日の過ごし方、就寝時間等細かくは決めずにその日の状況によって柔軟に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の着替えは意思表示できる方には、本人に着る服を決めてもらっている。なじみの美容院も利用していただいたり、希望があればヘアカラーや自由に化粧もしていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の希望や好みに対応した栄養バランスの摂れたメニューにしている。食事前後の準備や片付け、料理の下ごしらえもスタッフと一緒に楽しみながら行えている。	
			(外部評価) 献立はホワイトボードに書き、利用者や訪問したご家族が確認できるようになっている。食卓には、職員が持って来られた生花が飾ってあった。献立は、利用者の希望をお聞きしたり料理本を見て、ユニット毎に職員が交代で立てておられる。調査訪問時の昼食は、麺類のお好きな方の多い2階ユニットはチャンポン麺を作っておられた。食材は、地域の八百屋や魚屋から新鮮なものを配達してもらい、魚は骨を抜いて配達してもらっている。お米は、契約農家から届いたものを使用しており、おいしいごはんが食べられるように法人代表者が毎回、精米しに行かれている。利用者は、皮むき等、食材の下ごしらえをしたり、お好み焼き等の際には、一緒に作れるよう支援されている。食後には、下膳やトレー拭きをしたり、ランチョンマットを片付けている様子も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態や嗜好に合わせてケアプランを作り、柔軟に対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後一人ひとり声かけを行い、必要に応じて介助を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの力やパターンを把握し、本人と相談をおこない、声かけをしたり、誘導、介助を行っている	
			(外部評価) 昼間はできるだけトイレで排泄できるよう支援されている。夜間おむつを使用する方も、日中は大きめのパッドを使用し、トイレ誘導等もされている。調査訪問時には、ご自分でトイレに行かれた方に職員は、さり気なく声をかけて排泄の様子を聞いておられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分が摂りやすいようにジュースやコーヒーなどを用意したり、積極的にヨーグルトやヤクルトなどの乳酸菌を摂っている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 混乱されたりするため時間をきめている。個々の状態などに合わせて時間を変えたり声かけの仕方を工夫する、特殊浴槽での入浴など、柔軟に対応している。	
			(外部評価) 曜日を決めて、午後から入浴支援されている。利用者によっては、ご自分から「今日はお風呂の日やね」と職員に確認して準備する方がおられる。愛用のシャンプーや石鹸を使う方もいる。入浴を嫌がるような方もいるが、時間をずらして声かけすると入浴につながることもあり「気持ち良かった」と感想を話されるようだ。ご家族から声かけをしてもらおうと、スムーズな入浴につながるような場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者のその時の状況に合わせて声かけや誘導などを行い、安心して臥床できるよう支援を行っている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフは申し送りなどで薬の確認を行い、薬について理解をしている。また必要に応じてバイタルサインチェックを行い、症状変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) パズルや塗り絵など軽作業、風船バレーやトランプなどレクリエーションを個々に合わせて勧めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気に応じて散歩や外気浴などを勧めている。また本人の希望に合わせて買い物に行ったりしている。 (外部評価) 利用者は、周囲の田園風景を楽しみながら散歩しており、近くの公園まで散歩することが日課となっている。桜の時期には、お菓子やお茶を持って公園で何度も花見を楽しまれた。ニュースや新聞を見ながら職員と利用者が相談し、ドライブがてら梅や菜の花、コスモス等の季節の花見物にも出かけておられる。ウィンドウ・ショッピングがお好きな方には、近くの大型ショッピングセンターに出かけられるよう職員が付き添い支援したり、お寿司がお好きな方は、ご家族が迎えに来られて毎月、回転寿司で外食を楽しみ、買い物もして戻られる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々に合わせて本人が管理し、希望に応じて買い物に行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人や家族の希望に応じて電話を掛けたりされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			利用者にとって居心地のいい家具の置き場や装飾には工夫や配慮している。できるだけ季節感を感じられる装飾を常に心がけている。	
			(外部評価)	
			玄関は間口が広く取っており、車いすでも出入りがしやすい。居間は天井が高く梁が見えるような造りで開放感があり、ご家族の来訪時には、壁の行事写真をよく見られるようだ。南の窓からは手入れの行き届いた芝生やブドウの木等の樹木が見える。今年はブドウが豊作で、デザートでよく楽しまれたようだ。ベランダには、シソやお花を植えており、利用者が水やりをされている。調査訪問時の昼食後には、ソファに座って庭を眺めてくつろいたり、パズルをしたり、テレビを見る等、お好きなことをして過ごされていた。畳を敷いてある小スペースでは、座って皆で洗濯たたみをすることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			テレビの前にソファを置いたり、テラスに椅子や畳を用意してのんびりして頂けるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			本人や家族と相談し必要な物を揃えたり、レイアウトを変えるなどしている。	
			(外部評価)	
			居室の入り口には、職員手作りのネームプレートがかけあった。山がお好きな方は、自室から見える石鎚山を眺めて過ごされることもある。位牌にお茶やお菓子を供えて、日々手を合わす方もある。ご家族が持ってきた小説の月刊誌を枕元に置き、読む方もおられる。行事の写真やご家族が作った趣味の作品、職員からの誕生祝いの色紙を飾っている方がおられた。調査訪問時には、居室で毎日行っている体操や壁腕立て伏せを、実際に見せながら説明して下さった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			野菜の皮むきや雑巾作りなど簡単なものを楽しみながらも、自分がやったという達成感が得られるように工夫している。	